

令和3年度第4回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 令和3年9月16日（木）午後3時00分～午後3時27分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出席者
- | | |
|------------------|-------|
| 紋別市長 | 宮川良一 |
| 紋別市教育委員会教育長 | 堀籠康行 |
| 紋別市教育委員会教育長職務代理者 | 小林正男 |
| 紋別市教育委員会委員 | 上林善證 |
| 紋別市教育委員会委員 | 渡邊孝博 |
| 紋別市教育委員会委員 | 古屋真由美 |
- 4 構成員以外の出席者
- | | |
|-----------|------|
| 総務部企画調整課長 | 竹本幸孝 |
|-----------|------|
- 5 事務局関係
- | | |
|---------|------|
| 教育部長 | 佐藤健吾 |
| 学務課長 | 仲条憲明 |
| 学務課指導主事 | 綾部雅一 |
| 学務課庶務係長 | 米田晃 |
- 6 協議内容 (1) 令和3年度紋別市の学力状況について

令和3年度 第4回紋別市総合教育会議 午後3時00分開会

○宮川市長

定刻になりましたので、令和3年度第4回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、私が務めさせていただきます。

それでは、次第に基づきまして、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項（1）令和3年度紋別市の学力状況について、事務局から説明をお願いします。

○綾部指導主事

それでは、令和3年度全国学力・学習状況調査結果について説明させていただきます。

5月27日、小学校6年生と中学校3年生の全児童生徒を対象として、全国学力・学習状況調査が実施されました。こちらの資料は紋別市内小中学校の結果を速報としてまとめたものになります。このまま、広報もんべつ10月号に掲載される内容となりますが、昨年度は新型コロナウイルスにより本調査が中止となったため、今回は2年ぶりの結果公表となります。資料をご覧ください。中段にグラフがありまして、上から順に全国、北海道、紋別市という順になっております。その下の段に、グラフのもととなる平均正答率の数値がございます。今年度の結果につきましては、小学校では国語が全道平均を超えて全国平均並み、算数は全道平均並みとなりました。ここには記載しておりませんが、一昨年度に全道と比較して9.1ポイント、全国と比較して10.1ポイントの差がありましたので、この2年間で平均正答率が一気に9から10ポイント上昇したということになります。まだ全国平均にはわずかに及んでおりませんが、紋別市としては調査開始以降、最も全国との差が縮まる結果となりました。次に、中学校の結果ですが、国語では一昨年度、全道と比較して7.7ポイント、全国と比較して8.4ポイントの差がありましたが、今年度は5ポイント程度まで差が縮まりました。一方で、数学は一昨年度、全道と比較して7.2ポイント、全国と比較して9.0ポイントの差がありましたが、今年度は、全道とは9ポイント、全国とは11ポイント程度と、差が広がる結果となりました。2教科トータルで見ますと、一昨年度に比べわずかですが全国・全道との差が縮まっている状況となっております。学校や教育委員会に届いている結果データは、教科総合の平均正答率だけではなく、問題別、領域別、問題形式別など、様々な観点からの正答率がわかるようになっております。そのうちの領域別データ、例えば、「読むこと」、「話すこと」、「聞くこと」、「書くこと」などですが、これをみていきますと、昨年度までの

一番の課題は、「読むこと」と「書くこと」でした。今年は、特に「読むこと」の部分では、かなり数値が安定してきております。これまでの各学校の授業改善の取組や、学校図書館の充実などの学力向上策が、一つの成果として表れていることができます。ここで少し資料からそれてしまいましたが、現在の学力調査問題は、長文や図・グラフなどの様々な情報を読み取らなければ答えられない問題で構成されておりまして、それは国語だけでなく、算数・数学についても同じです。言い換えますと、こういった情報を読み解く力、「読解力」が非常に重要な力だというメッセージがこの調査に込められております。中学校の教科書が全て読める程度の読解力があれば、社会生活の中でも困ることはほぼありませんが、日本の中学生の現状は、読めない生徒が多数いるという研究もあります。全ての児童生徒が、「中学卒業程度の読む力」をしっかりと身に付けることは非常に重要だと考えております。また、この先の未来はあらゆる情報にあふれ、あらゆるものがインターネットの技術でつながります。紋別市も例外ではないと思います。そのような時代においては、「たくさんの情報を読み解き、正しく判断して必要な情報を選ぶ力」ですとか、「情報から問題を見出して、解決する力」、こういった力は地域社会を支えていく力の一つになるのではないかと考えております。今年度、紋別市教育向上プロジェクト、略してMKPと言っておりますけれども、こちらの学力部会、これは市内の各校1名ずつの教員に集まってもらいまして、学力向上策について情報交流や提言をまとめる部会ですけれども、こちらの部会でわかったのは、子どもの「読解力」の中でも、特に「何を問われているか、問いの意図を読み取ること」ですとか、「情報の多い問題や資料から、必要な情報を見つける」、こういったことが苦手だという傾向がわかりました。また、「自分の考えを表現する」ですとか、「与えられた条件を満たして書く」という、問題解決能力のベースとなる「表現力」が弱いことがわかりました。まさに、これらの点をしっかりと押さえて、教育に反映していくことが、紋別市の子どもの生きる力や地域の未来につながっていくのではないかと考えております。資料に戻りますが、これからの最も大きな課題は算数・数学です。国語以上に、小学校低学年からの積み上げが大きく左右する教科ですので、中学校だけで数学の力を向上させるというのは非常に難しい課題であります。小学校段階から少しずつ成果が表れているところですが、公教育としてのレベルに達するためには、あともう一步進まなければならない、という状況です。算数・数学の力も、データを読み解くという意味において、読解力の重要な基礎基本の一つであると考えております。教育委員会としても人的・物的資源など教育環境の面において、さらなる支援を図っていかなければならないところであると考えております。

以上で、説明を終わります。

○宮川市長

今、説明がありましたけれども、ご意見や感じたことがございましたら、願います。

○小林委員

私、教育委員をやって15年ぐらいになりますが、学力・学習調査で、ここまでいい結果を聞いたのは初めてのようになります。今までも努力をしていなかった訳ではありませんが、努力していても、どこかかみ合っていないのかなと思います。それが今、少しずつかみ合うようになってきていて、皆さんの努力がこのような成果につながったと感じております。

○上林委員

私も結構長く教育委員をやらせていただいておりますが、ここ10年を見ても、学校図書館がすごく充実してきております。学校訪問した際も、非常に綺麗ですし、お話を聞くと、図書の貸出しされている率も高くなってきているようなので、このように学校図書館司書のご協力をいただきながら、もっと充実した学校図書並びに図書館との連携、先ほどの教育委員会定例会にもありましたが、より一層充実した図書館というものを作り上げていくことが、これからも必要になってくると思います。今後、学校の教科書がデジタル化に移行していくので、より一層、本というものの大切さが、これからもっと必要になってくるのではないかと思いますので、より一層、その辺のところに関心を持ってみたいと思います。

○渡邊委員

多分、図書館の充実化とか、いろいろな学習の底上げなどやっていただいて、その発端が今見えてきているような状況だと思います。あとは、これからだと思いますが、今、だんだん図書館も充実してきて、データ化され、これをきちんと子どもたちに行き渡るよう、指導ではないですが、本に対する取組、字を、その意味を把握するところを、もっと充実させていければ、成績の向上というものにつながるのではないかと思います。例えば、教職員同士で、指導法の共有化を図り、全体的な底上げができれば、今、行っている方針などと結びつき、成績の向上にもつながっていくのではないかと感じました。多分、中学校の今の段階では、全国レベル以下となっておりますが、今、小学生が良い状態になってきているので、学年が上がると、その子どもたちが中学校に上がっていきますから、より効果が出てくるのではないかなと思います。あとは、これをいかに持続させられるかというところが課題ではないかと思います。

○古屋委員

読解力がすごく必要で大事だったということを理解しまして、やはり、学校の先生からも、そういうのが必要だということを各家庭に指導があったからこそ、こういう成績に導かれたのではないかなとすごく実感しています。

○宮川市長

先日も、事務局に聞いたのですが、児童生徒の成績が偏って、このような成績になっているのか、できる子とできない子の格差がひらいてきているのかということ聞いたのですが。その部分の説明をお願いします。

○綾部指導主事

今、最後の方に申し上げたのは、算数・数学の方なのですが、特に今のお話でいきますと、一般的にはこういうひとこぶの成績の低い方から順に高い方になる棒グラフにしたときに、こういうひとこぶラクダのような形になるのが一般的です。今の紋別市の傾向としましては、成績の低い層に少しこぶがあって、高い方にもこぶがあって、ふたこぶラクダの状態。成績の二極化があるということが課題となっております。これから、この低位層に少し焦点を当てた学力向上策が必要であると考えております。

○宮川市長

教える体制として、どこに照準を当てるかによって、やはり、できる子は物足りないとか、それはどこで、今度はできる子をさらに伸ばすための向上策をするのか、ちょっと疑問もあるのですが、先生も大変だろうなど。そこがクラスによって、大変だと思います。

○綾部指導主事

学力差のある児童を一つの教室の中で教えなければなりませんので、そういった先生方の苦労は、あると思います。

○堀籠教育長

そういうところですね。やはり算数・数学は、二つのこぶに対して、習熟度別にそれぞれの先生をつけるというような対策が必要かと思っていまして、この前の議会の議論でも、加配をいただくというところで習熟度別が必要だとか、紋別市の施策でも、学習サポーターとして、そういうふうにクラスを分けて、それぞれの層にということがありますので、そこにもう少し徹底されるとかですね、この算数・数学の、ふたこぶの問題を解決するにはいいのではないかと考えている

ところでは。

○上林委員

少し気になっていることがあるのですが、コロナの中で学校も私たち教育に関わる者も、実際に授業を受けている子どもを見る機会がちょっと少なくなっているのですが、以前、グループ学習のようなものがあって、複数の子どもたちでお互いに意見を出し合いながら学ぶという、そういうのがよく見られた光景だったのですが、今はやはり、かなり厳しくなっていますよね。この間、テレビで言われていたのですが、そういう中で、知らず知らずに落ちこぼれていく児童生徒が見受けられるという。他の子どもたちと、お互いに情報交換する機会が少なくなっていて、ついていけなくなっている子どもが、今出てきているという話がありますので、その辺の対策もこれから、このコロナの影響は、今年で終わるっていうものではありませんので、これから数年続くと思えば、その対策を考えなければならぬと思っております。

○綾部指導主事

今現在の対応としては、できるだけそのグループワークなど、そういった時間を短くする、例えば、今1人1台の端末が導入されておりますが、そこで、一人一人が自分の考えを文字で打ったり、書いて表したりしたものを、先生側の端末で一気集約できる機能がありまして、それを画面に表示させるなど、そういったお互いの意見を交流させるやり方を、ICTを活用する方法もありますので、そういった方法で、少しカバーをしていくような対応をしているところです。

○宮川市長

なかなか難しい問題ですよね。お互い言葉を交わして交流するのが大切だと思います。今、大人であってもメールでのやり取りで、いろいろなトラブルがあり、分かり合えないことが起きているという職場もあり、これが本当にどのような形なのか。会って話をしなさいと言っておりますが、それをできないのか、しない時代になっているのか、そういうことがすごく不安な部分もあります。

○渡邊委員

直接、顔を見て言葉で話すと、イントネーションで物事が伝わりますが、文章でそれを伝えようとするのは、非常に冷たいというか、ドライで、すごく難しいところがあります。例えば、それを共有化して、お互いデータを照らし合わせても、なかなか意図が伝わらない。そこで、どうしても語学力などが必要になってくることで、やはり、そういうことをやるにしても語学力というベースが必要だ

と思います。コミュニケーションを取るのがすごく今難しいので、それをどうクリアしていくかは、今の課題だと思います。

○宮川市長

子どもたちが、どのようなコミュニケーションの取り方をするかを考えたとき、一つ間違えると、だんだん書き込みが過激になっていく傾向があります。

○渡邊委員

受け止め方も変わってきますし。

○宮川市長

本当難しいですよ。教育現場は。

○堀籠教育長

今回の学力の関係ですが、紋別市では学習の標準検査をやっておりまして、そこでは、知能検査と学力検査を比較して、これぐらいの知能だったらこれぐらいの点数が取れるっていうのは大体見受けられますが、紋別は、知能の割に点数が取れていないというところがあります。今回、小学校は知能に見合った点数、全国と変わらないだけの点数を取るようになりました。これに必要なのは、自信を持つことです。家庭で評価をしてもらえるのかということです。子どもたちが自信持つことによって、学力もこのような結果が出ると言われているので、今回、小学校では結果が出ましたが、先日、小学校の授業を見に行ったときに、「君達どれぐらい点数を取れたの？」と聞いたら、自信なさそうな雰囲気がありました。今回の結果が出て、紋別の子ども達にも、自信持っているような活動してもらいたいと思い、先日、学校に行った時には、「今回、君たちはできたのだから、自信持って勉強やスポーツに励んでももらいたい。」伝えました。保護者や地域の方も、子どもたちは、やればできる子たちなので、自信を持てるよう接していただきたいと思います。

○渡邊委員

自己肯定感ですか。

○堀籠教育長

そうです。自己肯定感ですね、そういったところが、やはり点数取れるように働くのですよね。自分の能力よりも、さらに力を発揮するっていうところがあるので。前から思っていました、紋別の子どもたちは、自信が無さそうだと、皆

さん言うところがありましたので、ここで自信持って頑張っていたきたいと考えているところです。

○宮川市長

よく、スポーツでも良く言いますよね。おとなしいというのか、遠慮しているのか。

○渡邊委員

そうですね。何かすごくもったいない感じがします。これぐらいの能力があるのに、自分はこれしかできないみたいな。それは、自己アピールができないことにつながるとは思います。

○堀籠教育長

やはり、自己肯定感があると、何をやるにも、これから学力だけではなくて、社会に出て行くうえで、やはり自分がある程度できるっていうところの自信が、人生の強みにつながる事なので、ぜひ自信を持ってやって欲しいと思います。

○宮川市長

勝とうとする意欲がないというか。

○堀籠教育長

本当に、「どれぐらい平均取れたと思う？」って聞いたら、自信無さそうにしていたんですが、「あなたたち、もう一問正解したら全国を越えるのだよ」と言ったら、びっくりしていました。

○宮川市長

自信を付けていければ。

○上林委員

きっかけにはなりますよね。

○堀籠教育長

そうですね。

○渡邊委員

やればできるということです。

○宮川市長

よろしいでしょうか。以上で協議を終わらせていただきます。事務局の方から何かありますか。

○事務局

ありません。

○宮川市長

それでは、以上をもちまして総合教育会議を終了させていただきます。どうもご苦勞様でした。

午後 3 時 2 7 分終了